



KOBELCO
神戸製鋼グループ

2016年度 第3四半期決算

2017年2月2日

**代表取締役会長兼社長
川崎 博也**



報告事項

1. 2016年度第3四半期決算
2. 2016年度業績見通し
3. 財務の状況
4. 中期計画の進捗状況
5. 参考情報



1. 2016年度第3四半期決算



2016年度 第3四半期実績

(単位：億円)

	2015年度			2016年度			差異
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	対前年 ②－①
売上高	9,286	4,249	13,535	8,151	4,020	12,171	△1,363
営業損益	470	95	566	309	△352	△42	△608
経常損益	330	0	330	123	△383	△260	△590
(在庫評価影響を除く)	(405)	(60)	(465)	(238)	(△393)	(△155)	(△620)
特別損益	△94	△303	△397	0	0	0	+397
親会社株主に帰属する 四半期純損益	134	△272	△138	41	△405	△364	△226

第3四半期 セグメント別売上高

(単位：億円)

売 上 高	2015年度			2016年度			差異 対前年 ②－①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄 鋼	3,385	1,627	5,012	2,903	1,513	4,416	△595
溶 接	466	222	689	422	194	617	△71
アルミ・銅	1,783	842	2,625	1,629	769	2,399	△226
機 械	812	322	1,135	720	316	1,037	△98
エンジニアリング	574	266	840	495	301	796	△43
建設機械	1,812	767	2,579	1,561	726	2,287	△291
電 力	388	166	554	355	159	514	△40
そ の 他	357	161	518	312	165	477	△40
調 整 額	△294	△126	△421	△250	△126	△ 376	+44
合 計	9,286	4,249	13,535	8,151	4,020	12,171	△1,363



第3四半期 セグメント別経常損益

(単位：億円)

経常損益	2015年度			2016年度			差異 対前年 ②-①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄鋼	△12	△19	△31	△98	△150	△249	△217
溶接	43	18	61	38	16	55	△6
アルミ・銅	94	24	119	65	34	99	△19
機械	28	25	53	37	22	59	+6
エンジニアリング	26	△3	22	0	1	1	△21
建設機械	19	△85	△65	△5	△321	△327	△262
電力	81	39	120	83	21	105	△15
その他	33	12	45	20	8	29	△16
調整額	16	△11	4	△18	△16	△34	△39
合計	330	△0	330	123	△383	△260	△590



2. 2016年度業績見通し



2016年度 業績見通し

(単位：億円)

	2015年度	2016年度 (10月公表)			2016年度			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対10月 ③-②
売上高	18,228	8,151	8,749	16,900	8,151	8,749	16,900	△1,328	±0
営業損益	684	309	141	450	309	△259	50	△634	△400
経常損益	289	123	△23	100	123	△423	△300	△589	△400
(在庫評価影響を除く)	(469)	(238)	(△13)	(225)	(238)	(△533)	(△295)	(△764)	(△520)
特別損益	△395	0	0	0	0	0	0	+395	±0
親会社株主に帰属する 当期純損益	△215	41	△41	0	41	△441	△400	△185	△400



2016年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売 上 高	2015年度	2016年度 (10月公表)			2016年度			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対10月 ③-②
鉄 鋼	6,658	2,903	3,197	6,100	2,903	3,247	6,150	△508	+50
溶 接	922	422	388	810	422	388	810	△112	±0
アルミ・銅	3,454	1,629	1,571	3,200	1,629	1,571	3,200	△254	±0
機 械	1,590	720	850	1,570	720	810	1,530	△60	△40
エンジニアリング	1,317	495	755	1,250	495	735	1,230	△87	△20
建 設 機 械	3,362	1,561	1,489	3,050	1,561	1,439	3,000	△362	△50
電 力	767	355	345	700	355	365	720	△47	+20
そ の 他	745	312	448	760	312	438	750	+5	△10
調 整 額	△589	△250	△290	△540	△250	△240	△490	+99	+50
合 計	18,228	8,151	8,749	16,900	8,151	8,749	16,900	△1,328	±0



2016年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2015年度	2016年度（10月公表）			2016年度			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対10月 ③-②
鉄鋼	△149	△98	△202	△300	△98	△202	△300	△151	±0
溶接	81	38	27	65	38	27	65	△16	±0
アルミ・銅	151	65	35	100	65	45	110	△41	+10
機械	67	37	8	45	37	13	50	△17	+5
エンジニアリング	46	0	25	25	0	10	10	△36	△15
建設機械	△119	△5	△5	△10	△5	△335	△340	△221	△330
電力	174	83	67	150	83	52	135	△39	△15
その他	73	20	50	70	20	50	70	△3	±0
調整額	△36	△18	△27	△45	△18	△82	△100	△64	△55
合計	289	123	△23	100	123	△423	△300	△589	△400

【鉄鋼】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	2,903	3,197	6,100	2,903	3,247	6,150	+50
経常損益	△98	△202	△300	△98	△202	△300	±0
(内在庫評価影響)	(△75)	(0)	(△75)	(△75)	(115)	(40)	(+115)

2016年度の状況

- 原料炭価格の高騰を受け、一時的なメタルスプレッドの悪化を見込むが、主原料価格の上昇に伴う在庫評価影響の好転により経常損益は前回予想通り。
- 加古川製鉄所の高炉改修工事は予定通り完了。上工程集約に向けた取組みも計画通り進捗。



【鉄鋼】生産・販売状況

	2015年度				2016年度		
	上期	3Q	下期	年度	上期	3Q	年度
全国粗鋼 (万t)	5,206	2,634	5,217	10,423	5,255	2,648 <small>11月末</small>	
全国在庫水準 (万t)	579	572	550	--	561	540 <small>11月末</small>	
薄板3品在庫水準 (万t)	421	413	411	--	397	383 <small>11月末</small>	
国内自動車生産台数 (万台)	445	235	474	919	441	162 <small>10-11月計</small>	

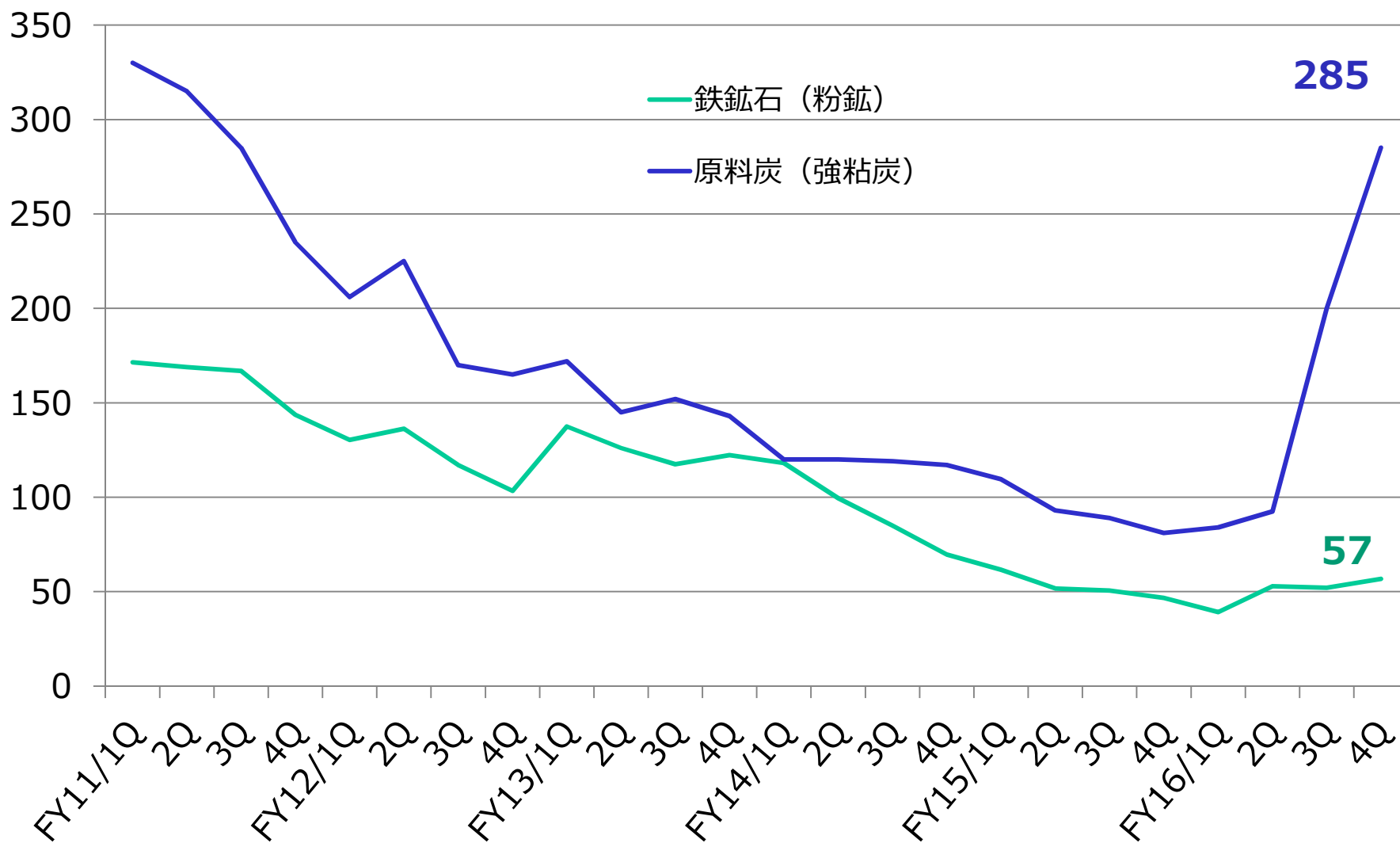
<当社>

粗鋼生産 (万t)	367	189	381	748	384	143	720程度
鋼材販売量 (万t)	297	147	303	600	292	148	590程度
(内国内)	(197)	(104)	(211)	(408)	(202)	(106)	
(内海外)	(100)	(43)	(93)	(193)	(90)	(42)	
鋼材販売単価 (千円/t)	78.7	75.4	71.8	75.2	68.0	69.0	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	34.2%	29.2%	30.0%	32.2%	29.5%	27.7%	



【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

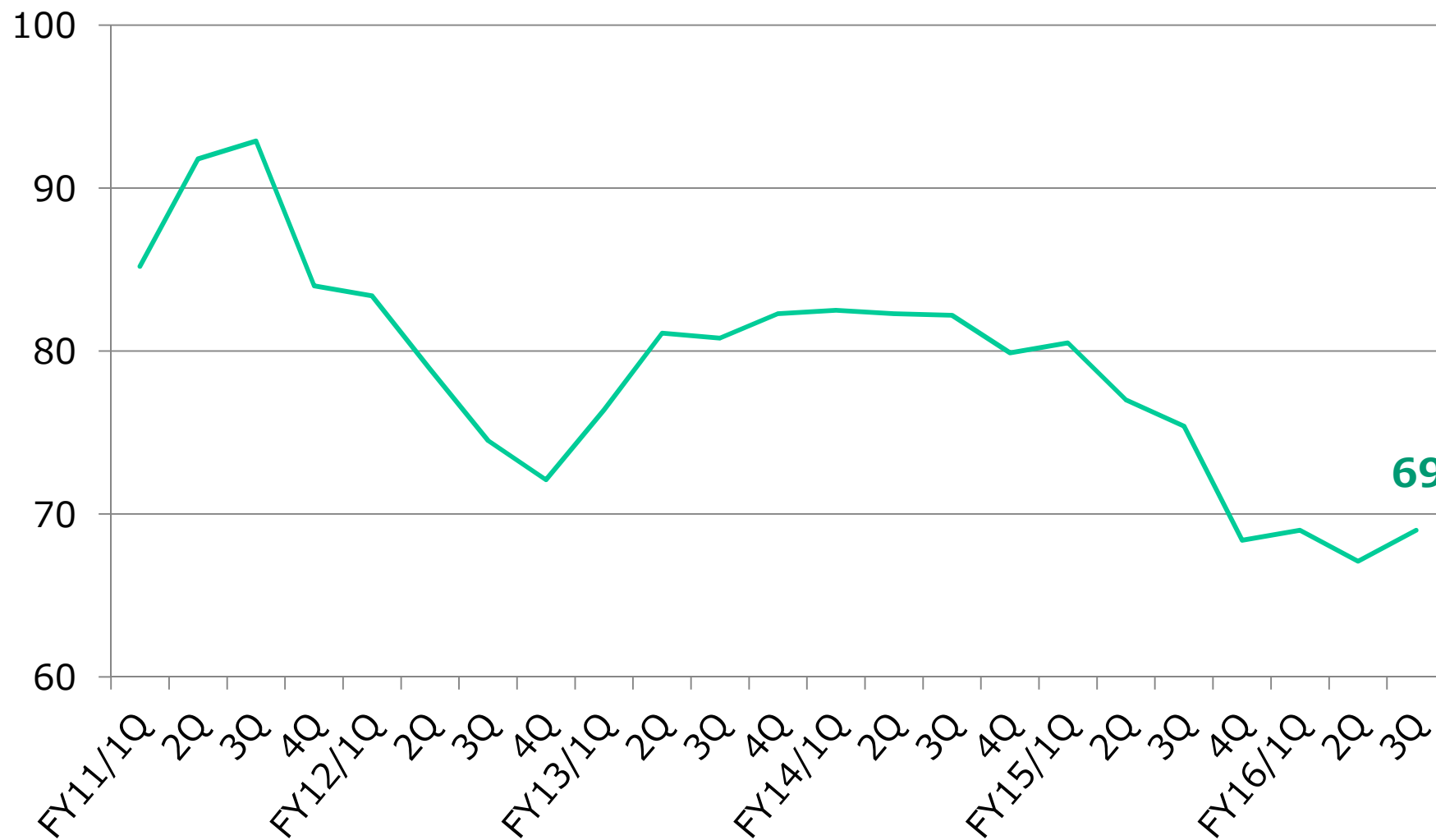
(単位：\$/トン)





【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)



【溶接】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	422	388	810	422	388	810	±0
経常損益	38	27	65	38	27	65	±0

<当社の販売状況>

(単位：千t)

	2015年度				2016年度	
	上期	3Q	下期	年度	上期	3Q
国内	66	31	63	129	62	31
海外	87	44	87	174	89	40
合計	153	75	150	303	151	71

2016年度の状況

- エネルギー関連需要の低迷を背景に溶接材料の需要は低調。一方で、溶接システムは、国内建築向けを中心に引き続き好調を維持しており、前回予想並みの損益を見込む。



【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2016年度 (10月公表)			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ② - ①
売上高	1,629	1,571	3,200	1,629	1,571	3,200	±0
経常損益	65	35	100	65	45	110	+10
(内 在庫評価影響)	(△40)	(△10)	(△50)	(△40)	(△5)	(△45)	(+5)

<当社の販売状況>

(単位：千t)

	2015年度				2016年度		
	上期	3Q	下期	年度	上期	3Q	年度
アルミ圧延品 国内	140	66	137	277	155	69	294
輸出	33	20	36	69	31	17	68
銅板条	25	12	24	49	26	14	54
銅管	42	21	43	85	45	21	89

2016年度の状況

- アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材、自動車向けに引き続き堅調に推移。
- サーバー向けのディスク材や自動車用端子向けの銅圧延品の販売数量が、前回想定に比べ増加したことなどから増益を見込む。

【機械】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	720	850	1,570	720	810	1,530	△40
経常損益	37	8	45	37	13	50	+5
受注高	558	740程度	1,300程度	558	740程度	1,300程度	±0程度

2016年度の状況

- 原油安を背景としたエネルギー関連需要の低迷などから厳しい受注環境が継続する一方、案件構成の変化などにより増益を見込む。

【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	495	755	1,250	495	735	1,230	△20
経常損益	0	25	25	0	10	10	△15
受注高	806	540程度	1,350程度	806	890程度	1,700程度	+350程度

2016年度の状況

- 廃棄物処理関連事業での大型案件受注により前回計画から受注高増を見込む一方で、一部案件の採算の悪化などにより減益を見込む。

【建設機械】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	1,561	1,489	3,050	1,561	1,439	3,000	△50
経常損益	△5	△5	△10	△5	△335	△340	△330
(中国の引当金計上額)	(33)	(0)	(33)	(33)	(310)	(343)	(+310)

2016年度の状況

- 中国のショベル事業において、多額の貸倒引当金を追加計上したことなどから、大幅な経常損失の悪化を見込む。
- 中国ではショベル需要に回復の兆し。当社としては、合併契約を解消し、当社主導で中国事業の再構築を図る。

⇒詳細は、本日、同時公表のIR説明会資料「建設機械 中国事業の取り組み」にて整理しておりますので合せてご参照下さい。

【電力】

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
売上高	355	345	700	355	365	720	+20
経常損益	83	67	150	83	52	135	△15

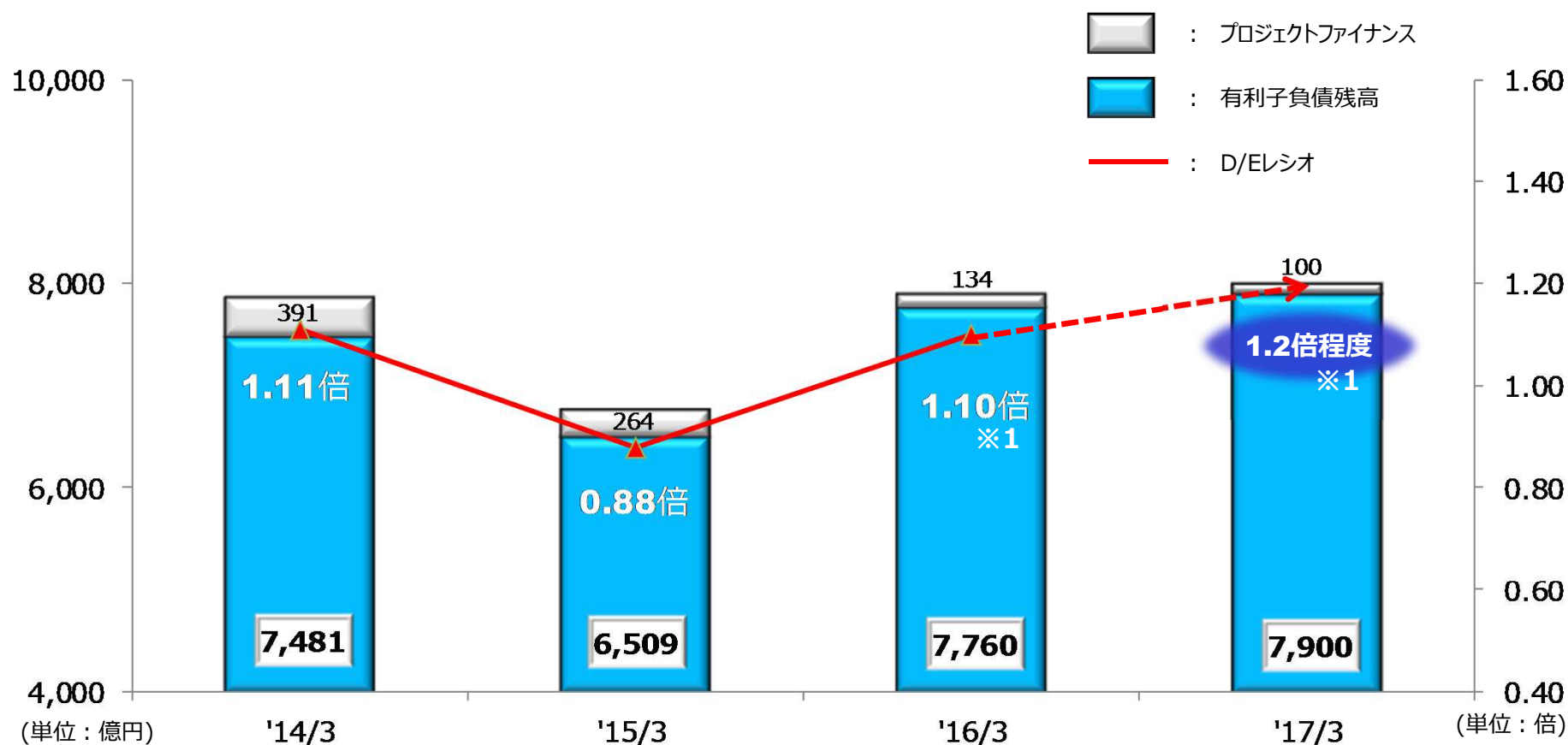
2016年度の状況

- 引き続き安定操業を継続する一方、燃料費調整のズレなどにより減益を見込む。



3. 財務の状況

【財務の状況】



※1：前倒し調達額を除いたDEレシオ

	2015年度	2016年度
前倒し調達額 (億円)	900	950
前倒し調達除くDEレシオ	0.97倍	1倍程度

【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2015年度	2016年度（10月公表）			2016年度			差異
	実績	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	年度 ②－①
営業キャッシュフロー	858	741	309	1,050	741	359	1,100	+50
投資キャッシュフロー	△1,038	△610	△940	△1,550	△ 610	△ 890	△ 1,500	+50
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	△180	131	△631	△500	131	△ 531	△ 400	+100
プロジェクトファイナンス 返済原資	113	34	66	100	34	66	100	±0
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	△67	165	△565	△400	165	△ 465	△ 300	+100
プロジェクトファイナンス除く 現金残高	1,685	2,136	600		2,136	※ ¹ 1,550		+950

※1：2017年度分借入金の前倒し調達（950億円）含む



(余 白)



4. 中期計画の進捗状況

【3本柱の事業成長戦略】

素材

- I 輸送機軽量化への取組み
- II 鉄鋼事業の収益力強化

2017年下期に上工程設備を加古川製鉄所へ集約

- ・ 設備発注、建設工事など全体的に予定通り進捗
- ・ 上工程集約に伴い必要となる需要家の再承認取得を推進

機械

- I エネルギー・インフラ分野への取組み
- II 建設機械事業の収益力強化

中国ショベル事業の再構築

- ・ 合併契約を解消し、当社主導により中国事業を再構築

電力

電力供給事業の安定収益化への取組み

- ・ 神戸1,2号機の延長契約締結
- ・ 新規プロジェクト（真岡、神戸3,4号機）を予定通り推進



【3本柱の事業成長戦略】 成長分野への取組み

輸送機軽量化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
自動車	特殊鋼・普通鋼線材圧延・販売合併会社 (Kobelco Millcon Steel Co., LTD)	タイ	海外初の線材圧延拠点 拡大が見込まれる東南アジアの自動車生産需要を捕捉	2015年9月 普通鋼製造開始 2017年5月 特殊鋼製造開始 予定
	CHワイヤー（鋼線）の製造・販売合併会社 (Kobelco CH Wire Mexicana, S.A. de C.V.)	メキシコ	現地自動車部品メーカーへ品質に優れた製品を迅速に納入	2016年1月 稼働開始
	自動車用冷延ハイトン製造・販売会社 (鞍鋼神鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取り組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイトンのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材（天津）有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年後半 稼働予定
航空機	エアバス向けチタン大型鍛造品の量産供給開始	—	日本で初めて着陸装置用チタン大型鍛造品の開発・量産に成功	2016年7月 量産供給開始
	GE社向け大型ジェットエンジン用チタン合金鍛造品の認定取得及び量産供給開始	—	米GE社製造の民間航空機向け大型エンジンに使用されるチタン合金鍛造品（シャフト）サプライヤーとして認定を取得、供給を開始	2016年8月 認定取得 量産供給開始
船舶	船舶用鑄鍛鋼部品における新技術、製品の認証・開発	—	船舶向けに高強度な軽量部材を提供 船舶の燃費改善に貢献	2016年10月 認証・開発



【3本柱の事業成長戦略】 成長分野への取組み

エネルギー・インフラ分野への取組

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	—	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	LNG船向け非汎用スクリュ式圧縮機の受注	—	船用二元燃料焼きエンジン向けに世界初の「スクリュ式」圧縮機を受注	2016年10月 受注 2017年8月 納入予定
建設機械	油圧ショベル新工場 (Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.)	米国	北米ユーザー向けの生産リードタイム圧縮、市場ニーズへの対応力強化	2016年3月 操業開始
	国内向け超大型クローラクレーンの開発・販売開始 (最大つり上げ能力1,250トン)	—	超大型クローラクレーン需要の高まりに対応した国産最大級クローラクレーンの供給	2016年5月 販売開始
エンジニアリング	放射性廃棄物処理に関する合併会社設立 (コベルコ スタズビック株式会社)	日本	国内原子力発電所の廃炉等の課題に対して安全な放射性廃棄物処理技術・プロセスを提供	2016年4月 合併契約締結
	MIDREX直接還元鉄プラントの新規受注	アルジェリア	世界最大クラスとなる年産能力250万トン 同国産業の発展に貢献	2016年6月 受注 2018年11月 稼働予定
	エネルギー回収型ごみ処理施設運営事業を受注	日本	当社初の流動床式ガス化燃焼炉採用 次世代型焼却炉で施設のコンパクト化、発電量の最大化、環境負荷軽減に貢献	2016年6月 受注 2016年～2019年 設備建設 2019年～2039年 設備運営
	広域ごみ処理施設整備・運営事業を受注	日本	幅広いごみ質に対応し、安全・安定燃焼を実現するストーカ式燃焼炉。低空気比燃焼、高効率発電により、環境負荷軽減に貢献。	2016年12月 受注 2016年～2022年 設備建設 2022年～2042年 設備運営

【3本柱の事業成長戦略】 成長分野への取組み

電力事業

分野	案件	地域	概要	時期
電力	神戸発電所 1,2号機 (株コベルコパワー神戸)	日本	2002年稼働の微粉炭火力超臨界圧発電設備。現行契約満了にあたり、契約を延長。 発電規模：140万kW（70万kW×2）	2002年4月 1号機操業開始 2004年4月 2号機操業開始 【延長契約期間】 1号機：2017年4月～ 2号機：2019年4月～
	真岡発電所 1,2号機 (株コベルコパワー真岡)	日本	国内初の本格的な内陸型発電所として国内最高レベルの効率での発電、都市ガス燃料のガスタービン・コンバインドサイクル設備。 発電規模：124.8万kW（62.4万kW×2基）	2016年6月 建設開始 2019年後半 1号機稼働予定 2020年前半 2号機稼働予定
	神戸発電所 3,4号機（仮称）	日本	最新鋭の発電技術である微粉炭火力超々臨界圧発電設備での発電 発電規模：130万kW（65万kW×2基）	2021年度 3号機稼働予定 2022年度 4号機稼働予定



4. 参考情報

【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2013年度	2014年度	2015年度 ①	2016年度 ②	差異 ②－①
設備投資<計上>	1,014	1,035	1,099	1,750	+651
対減価償却費	122%	115%	116%	175%	+59%
設備投資<支払い>	954	953	991	1,650	+659
対減価償却費	115%	106%	105%	165%	+60%
減価償却費	829	898	948	1,000	+52

【財務指標】

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 上期
R O S ※1	4.7%	5.4%	1.6%	1.5%
1株あたり当期純利益 ※2	226.28円	238.19円	△59.34円	11.31円
D / E レシオ ※3	1.11倍	0.88倍	※4 1.10倍	1.19倍
R O A ※5	3.8%	4.4%	1.3%	※7 1.1%
R O E ※6	11.9%	12.0%	△2.9%	※7 1.2%

※1：売上高経常利益率

※2：当社は2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。
2015年度以前も株式併合を前提として算定

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本（15年度は株主資本）

※4：2016年度分借入金の前倒し調達（900億円）含む
前倒し調達除く2015年度D/Eレシオ：0.97倍

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※7：利益は年率換算

全社 差異内訳 (2015年度3Q累計⇒2016年度3Q累計)

(単位：億円)

	2015年度			2016年度 (今回見通し)		
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計
経常損益	330	0	330	123	△383	△260



△ 590

増益要因		減益要因	
原料価格	+ 60	生産・出荷	△ 390
総コスト削減	+ 20	アルミ・銅在庫評価影響	△ 20
鉄鋼在庫評価影響	+ 50	連結子会社・持分法	△ 340
鉄鋼為替影響	+ 35	その他	△ 5
合計	+ 165	合計	△ 755

鉄鋼 差異内訳（2015年度3Q累計⇒2016年度3Q累計）

(単位：億円)

	2015年度			2016年度（今回見直し）		
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計
経常損益	△12	△19	△31	△98	△150	△249



△ 217

増益要因		減益要因	
原料価格	+ 60	生産・出荷	△ 390
総コスト削減	+ 35	その他	△ 7
在庫評価影響	+ 50		
為替影響	+ 35		
合計	+ 180	合計	△ 397

全社 差異内訳 (2016年度 10月公表 ⇒ 今回見直し)

(単位：億円)

	2016年度 (10月公表)			2016年度 (今回見直し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	123	△23	100	123	△423	△300



△ 400

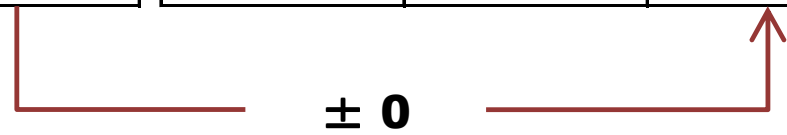
増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 45	原料価格	△ 125
鉄鋼在庫評価影響	+ 115	総コスト	△ 20
Al・Cu在庫評価影響	+ 5	連結子会社・持分法	△ 335
		鉄鋼為替影響	△ 35
		その他	△ 50
合計	+ 165	合計	△ 565

鉄鋼 差異内訳（2016年度 10月公表 ⇒ 今回見直し）

(単位：億円)

	2016年度（10月公表）			2016年度（今回見直し）		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△98	△202	△300	△98	△202	△300

± 0

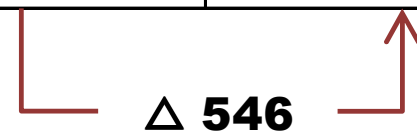


増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 40	原料価格	△ 125
在庫評価影響	+ 115	総コスト	△ 15
その他	+ 20	為替影響	△ 35
合計	+ 175	合計	△ 175

全社 差異内訳 (2016年度 上期実績⇒下期見通し)

(単位：億円)

	2015年度			2016年度 (今回見通し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	330	△41	289	123	△423	△300



増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	95	原料価格	△	330
鉄鋼在庫評価影響	+	190	総コスト	△	75
アルミ・銅在庫評価影響	+	35	連結子会社・持分法	△	300
			鉄鋼為替影響	△	35
			その他	△	126
合計	+	320	合計	△	866

鉄鋼 差異内訳（2016年度 上期実績⇒下期見通し）

(単位：億円)

	2015年度			2016年度（今回見通し）		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△12	△137	△149	△98	△202	△300



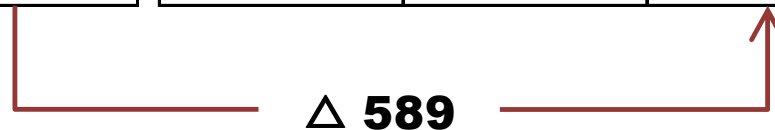
△ 104

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	100	原料価格	△	330
在庫評価影響	+	190	総コスト	△	60
その他	+	31	為替影響	△	35
合計	+	321	合計	△	425

全社 差異内訳（2015年度実績 ⇒ 2016年度見通し）

(単位：億円)

	2015年度			2016年度（今回見通し）		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	330	△41	289	123	△423	△300

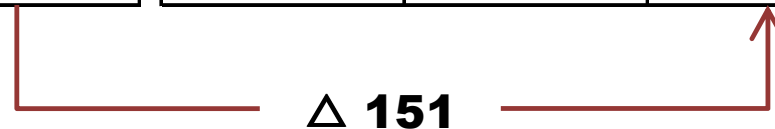


増益要因		減益要因	
鉄鋼在庫評価影響	+ 185	生産・出荷	△ 245
鉄鋼為替影響	+ 15	原料価格	△ 130
		総コスト	△ 55
		アルミ・銅在庫評価影響	△ 10
		持分子会社・持分法	△ 305
		その他	△ 44
合計	+ 200	合計	△ 789

鉄鋼 差異内訳 (2015年度実績 ⇒ 2016年度見通し)

(単位：億円)

	2015年度			2016年度 (今回見通し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△12	△137	△149	△98	△202	△300



増益要因		減益要因	
在庫評価影響	+ 185	生産・出荷	△ 245
為替影響	+ 15	原料価格	△ 130
その他	+ 44	総コスト	△ 20
合計	+ 244	合計	△ 395

企業理念

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

以上の理念の下、グループ全体としての企業価値を向上させます。

将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料の Availability や市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化